

活動報告書

報告者氏名:西村健一 所属:香川県立高松養護学校

記録日:2014年2月5日

【対象児の情報】

- ・学年 中学部 1年生
- ・障害名 先天性水頭症
- ・障害と困難の内容

重度重複障害があり、口や指先以外に自分の身体を自由に動かすことが難しい。また、市販されているスイッチ類を自分で操作することは困難である。海等でのアウトドア活動を楽しんだ経験は少ない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
- ・OAKを用いて本人の主体的な活動を展開することができる。
- ・従来のスイッチではできなかった活動に、口元や指先などのわずかな動きを生かして取り組むことができる。

<活動計画>

- (1)本人の興味のある物や好きな活動を見つける。
- (2)OAKを使って、好きな活動ができるシステム(装置)を作る。
- (3)集団の中で、OAKのできることをを見つける。
- (4)OAKを使った、海のアウトドア活動へと展開する。

・実施期間 2013年5月～2014年2月

・実施者 教師2名と保護者1名

・実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児の事前の状況

本人の口元などの偶然の動きに OAK が反応した。

・活動の具体的内容

(1)本人の興味のある物や好きな活動を見つける。

本人が興味のある物や好きな活動を探るために、授業で様々な物を触ったり匂ったりした(表1)(図1)。

表1 本人の興味のある物や好きな活動

各感覚	興味のある物や好きな活動
視覚	釣り具のリールの動き、生きた「ふぐ」
聴覚	ウクレレ、風鈴、ケロロ軍曹のテーマ曲
触覚	いぐさ、生きた「ふぐ」のお腹
嗅覚	芳香剤(ストロベリー系)、いぐさ、パセリ
その他	扇風機の風に当たること



図1 生きた「ふぐ」を見ている様子

(2)OAK を使って、本人の好きな活動ができるシステムを作る。

本人の興味のある物や好きな活動を実現するために、

OAK を使って活動できるシステムを構築した。

・パソコンで You Tube の「ケロロ軍曹のテーマ曲」を再生する。

・パソコンから扇風機までを接続し、扇風機を動かす(図2)。



図2 扇風機を動かしている様子

(3)集団の中で、OAK ができることを見つける。

・参加者に OAK で作ったかき氷を振る舞うという活動を設定する(図3)。

通常は一人での訪問授業であるが、地域の小学校などに共同学習への参加を呼び掛けたところ十名を超える参加者があった。

OAK を使ってかき氷を作る様子を見て、参加者からは感嘆の声とともに、

「すごいね」「私もしてみたい」などの声が上がっていた



図3 かき氷を作っている様子

(4)OAK を使った、海のアウトドア活動へと展開する。

・パソコンとリモコンボートと竿型水中カメラを接続し、OAK で海中散歩をする。

本人の興味のある物や好きな活動として、生きた「ふぐ」やリール、扇風機の風に当たることなどが挙げられた。そこで「海でそよ風に当たりながら、自分で釣り具を使って水中の生きた魚を見る」ことは、本人にとって好きな活動の可能性が高いと判断した。

竿型水中カメラとして導入した「うみなかみるぞう君」は、竿やリールによってカメラの位置を操作することができモニター出力も可能であった(図4)。また、リモコンボートのリモコンを分解し、リモコンの回線を外部に出した後で回路1は右側前進、回路2は右側後退、回路3は左側前進、回路4は左側後退としてはんだづけをすることで、OAK とつながるようにした。リモコンボートに「うみのなかみるぞう君」を取り付けることにより、OAK を操作することで水中の様子や魚を見ることができるようになった(図5)。



図4 うみなかみるぞう君



図5 うみなかみるぞう君

・対象児の事後の変化

・OAK で活動中に周囲の「すごいね」という声に笑顔を見せるなど、楽しんで活動している様子が見られた。

・OAK を使ってパソコンで音楽を聞いたり扇風機を動かしたりするなど、主体的な動きが見られた。

・OAK のシステムを活用することで、海辺での活動ができるようになった(図6)。



図6 海での活動の様子

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

・OAK を活用することにより、従来のスイッチでは実現できなかった活動が展開できた。

・屋内だけでなく、屋外での活動にも活用することができた。

・エビデンス(具体的数値など)

・その他エピソード(画像などを含めて)

OAK を屋外で活用する場合には、OAK の設定や持ち運び用の電源が必要となる。また、車いすに OAK を設置するアームなどの専用機材が必要である。これまでのスイッチ類の設置に比べると格段に容易にはなっているものの、特に屋外で活用するためには専門的な知識と技術が求められる。